

公益社団法人埼玉県理学療法士会
令和4年度第1回拡大理事会議事録

1. 開催日時：令和4年5月17日（火）19：00～21：00

2. 会 場：インターネット会議

3. 理事現在数及び定足数

理事現在数 19名 定足数 10名

4. 出席理事数 19名

出席理事： 南本浩之、岡持利亘、水田宗達、田口孝行、原田慎一、渡邊雅恵、横山浩康
茄子川知浩、兵頭甲子太郎、赤坂清和、三宮将一、阿久澤直樹、櫻場勝、吉川貴矩
宇野潤、真下和貴、菊地裕美、乙戸崇寛、渡邊賢治

欠席理事： なし

5. 監事現在数及び出席監事氏名

監事現在数 2名

出席監事：前園徹、清宮清美

6. 出席部長・エリア長・委員長

塚田陽一、鈴木昭広、渡邊孝広、柳田千絵、馬場裕之、前園佑貴、吉原旦容、菅野岳
遠藤浩士、荒木心太、木勢峰之、駒井敦、西尾尚倫、石井貴朗、村田佳太、佐藤渉、佐々木洋平、
倉林泰士郎、坂田修、榎本隆、原和帆、長島秀幸、米澤隆介、中島浩二、金子佳弘、飯塚雄大、
本宮光信、國澤洋介、中野克己、大隈統、芝崎伸彦、石動恭平、吉田和正、原嶋創

7. 出席部員

西岡幸哉（書記）

8. 議長の氏名

南本浩之

9. 議 題

<計画内審議>

○令和3年度事業報告・決算報告・監査報告について

<計画外審議>

○【教育局】士会承認研修会・症例検討会の報告用フォームについて

○【教育局】新生涯学習制度導入に伴う「教育局副局長」の試行設置、および「教育局副局長」の推薦について。

○【ブロック連絡委員会】ブロックにおけるLINE公式アカウントの使用について

<報告事項>

○【事務局】LINEWORKS審議について

<その他事項>

なし

10. 理事会の議事の経過の要領及びその結果

(1) 定足数の確認等

冒頭で本理事会はインターネット会議のため出席者の通信状況を確認し問題なく進行できることが確認された。

(2) 議案の審議状況及び議決結果等

<計画内審議>

令和3年度事業報告・決算報告について議長の求めに応じ各理事・部長等から資料に基づき説明があった。

事務局

総務部（水田代読）：今年度の活動として、公文書の確認・法人登記・事務局会議の開催・県補助金申請書、決算書作成・県庁の電子申請業務を行った。

庶務部（塚田）：理事会・代表者会議・連絡会議の運営などを行った。

総会運営部（鈴木）：今年度の総会は6月19日にウエスタ川越にて開催予定。ハイブリッド開催で準備を行っている。議決権の行使について、職場スタッフへの声掛けをお願いしたい。

管財資料部（水田代読）：事務室内の整理や議事録等の保管・廃棄を行った。一昨年度から備品管理も行っている。滞りなくおこなえている。

厚生部（水田代読）：イベントの企画を行っているが、会員交流会等中止になっている。団体保険に関しては、継続して加入している。託児所の準備はあるが、昨年度利用はない。

労務管理部（水田代読）：事務委員の雇用について管理。必要に応じて社労士と打ち合わせをしている。

財務局

出納部（柳田）：例年通り各部局への事業費・運営費の支払い・清算・会計報告を行っている。現金での受け渡しが増えていて煩雑になっているが協力をお願いしたい。

会費管理部（本宮代読）：例年通り滞りなく実施。

財務渉外部（本宮代読）：例年同様に賛助会員に関する業務・税務に関する業務・インターネット広告料の請求を行っている。東京国際大学が賛助会員に増えている。

事業局

高齢者福祉部（前園）：オンラインでの研修会が中心で実施。参加者をもう少し増やせるように勘案中。

小児福祉部（吉原）：昨年度は動画をアップしての研修会を実施。他団体との協力事業はコロナ禍もあり事業中止。

健康増進部（菅野）：web、対面式の2つの事業を実施。

スポーツリハビリ推進部（遠藤）：技術研修会は対面のものは中止。Webで2つの研修会を実施。ふれあいピック事業は中止。その他事業もコンディショニングよりは応急処置、緊急対応中心に実施。

学術局

理学療法編集部（兵頭代読）：雑誌編集を例年通り行っている。近日中に会員へ届く予定。

研究推進部（荒木）：研究補助金事業と賛助会員との共同研究事業を行っている。研究補助金事業に関しては15題あり、7題が対象研修になっている。賛助会員の共同研究に関しては準備のみ実施。今年度から再開予定。

教育局

認定・専門研修部（木勢）：研修会は全6回実施している。無断キャンセルに対する対応が課題。全ての事業はオンラインで実施している。理学療法士講習会の取りまとめも実施している。

新人教育部（田口代読）：部長が変更になっている。オンラインで厚生部と協同で実施した。

後期研修部（駒井）：新規に増設された部。研修会の企画、症例検討会の準備を進めている。

登録・認定理学療法管理部（田口代読）：新規に増設された部。名簿管理等を実施している。

臨床実習教育部（田口代読）：臨床指導者講習会開催へ向けて情報交換会等を養成校の教員が集まり、実施している。また、ファシリテーター研修を実施している。

指定管理者研究部（西尾）：領域別は実施せず、若手管理者向けの研修を2回実施。

広報局

広報誌編集部（石井）：広報誌を19000部発行。滞りなく実施。

インターネット管理部（村田）：新型コロナウイルスの影響もあり、HPの利用は例年より低調な状況。メルマガ等の管理も実施している。

理学療法週間推進部（佐藤）：啓発のために動画を作成している。また、日本理学療法士協会のHPにて特設サイトをアップしている。

職能局

業務推進部（阿久澤）：他団体との連携強化を実施している。話がまとまってきたところは今後お知らせしていく。

医療保険部（阿久澤代読）：例年通り行えている。オンライン研修でも参加人数が少ないため、講師の方にご理解を頂いてアーカイブ配信も行っている。

介護保険部（佐々木）：4月に介護保険の改定があり、介護保険に対する制度の研修会を3回準備している。

地域包括ケア推進部（倉林）：推進リーダー研修、介護予防推進リーダー研修、ブラッシュアップ研修等実施している。今年度も同様に実施していく。

東部ブロック（櫻場）：例年通りの計画で実施している。啓発活動はコロナ禍もあり中止。

北エリア（櫻場代読）：研修会3回実施した。

中央（坂田）：研修会3回実施した。オンラインで公開講座を実施したが、参加者86名でオンラインとしては盛況であった。

南エリア（榎本）：研修会は2回実施している。1回中止になった。

西部ブロック（吉川）：公開講座に関しては、印刷物での啓発活動として実施した。ブロックでの交流会議を政治活動の説明含めて実施した。

川越エリア（原）：オンラインで研修会を3回と症例検討会を1回に分けて実施している。

秩父エリア（吉川代読）：研修会と症例検討をオンラインで予定通り実施した。

三芳エリア（吉川代読）：研修会は例年通り実施した。

所沢エリア（長島）：症例検討会1回、研修会1回、交流会議1回実施している。

南部ブロック（宇野）：ブロック全体として対面で実施していたものをオンラインに切り替えて実施している。

県央エリア（米澤）：オンラインで研修会を3回と症例研修会を1回実施している。交流会は2回実施している。

さいたまエリア（中島）：研修会3回、交流会1回、症例検討会1回オンラインにて実施。

南エリア（金子）：オンラインにて研修会を4回実施している。最初は参加人数が少なかったが徐々に参加人数は増えていた。症例検討会と公開講座に関しては新型コロナウイルス感染症のため中止になっている。

北部ブロック（真下）：市町村会議に力を入れて実施している。

東松山エリア（真下代読）：エリア研修、市町村会議を実施。

坂戸エリア（真下代読）：エリア研修、市町村会議を実施。

熊谷エリア（飯塚）：研修会全4回と市町村会議を実施。

深谷・本庄エリア（真下代読）：オンラインで研修会を2回実施している。

委員会

ブロック連絡委員会（渡邊）：東西南北ブロックの情報共有のための会議を実施。ブロック間での事業統一をしていく。

組織運営委員会

財政基盤検討委員会（本宮）：入力に間違いがあったため今後留意していく。

表彰委員会（菊地）：保健医療部各賞の推薦にあたり資料の取りまとめを行っている。
公衆衛生事業功労者に対する知事表彰は原嶋氏、須藤氏に決まっている。
公衆衛生事業功労者に対する日本公衆衛生協会会長表彰は山崎氏に決まっている。
埼玉県理学療法士会表彰規定に基づく功労賞は鈴木氏、渡邊氏、塚田氏となっている。

組織検討委員会（塚田）：理事増員等、組織の在り方について検討。また、神経難病リハビリテーション推進委員会の設置をした。

運営基盤検討委員会（菊地）：重点項目・年間計画を三役で集まりながら検討し、理事会へ提出している。

選挙管理委員会（菊地代読）：選挙の告示から選挙結果公示まで滞りなく実施した。

創立 50 周年記念式典準備委員会（塚田）：会場の決定、記念誌の準備をしている。

国際スポーツ競技対策委員会（遠藤）：オリンピックへ向けた研修と、終了後の報告研修を実施した。
サポート事業としてアジア・オセアニア大陸予選ボート競技大会を実施した。

第 42 回関東甲信越ブロック理学療法士学会準備委員会：第 40 回大会の視察は中止。ブロック引継ぎ会議等に web 参加した。

埼玉県理学療法学会評議委員会（乙戸代読）：29 回の振り返り、33 回までの担当施設を決定した。

第 30 回埼玉県理学療法準備委員会（乙戸代読）：オンデマンド配信を 2 月 6 日まで実施した。

第 31 回埼玉県理学療法準備委員会（乙戸代読）：医学アカデミーの先生方を中心に準備を進めてもらっている。大会長は玄葉氏。

専門性委員会

がんリハビリテーション推進委員会（国澤）：チャリティーイベントは参加見送りとなった。アンケート集計し HP にアップ予定。

糖尿病対策委員会（乙戸代読）：今年度から大熊氏に変更になっている。例年通り実施できていた。

装具療法地域連携対策委員会（中野）：昨年度から研修会がスタートした。他職種の参加者の募集が課題。

学校保健・特別支援委員会（大隈）：研修会を1回実施した。

職能委員会

新分野開拓委員会（乙戸）：2回の委員会をzoomで実施した。神経難病リハビリテーション推進委員会の立ち上げ準備をしている。

訪問リハビリテーション復興委員会（石動）：Basicコース、ADVANCEコースともにオンラインで行っている。訪問リハスタートアップセミナー実施。

災害対策委員会（吉田）：今年度はBasicコース、ADVANCEコース計4回をオンラインにて実施している。JIMTEFスキルアップコースに参加した。

職業倫理委員会（水田）：研修会1回開催。ハラスメント防止対策をテーマに実施した。

10年度の理学療法を考える委員会（原嶋）：妊娠・出産等に関わる支援体制に理学療法の利用のお願いをした。また政治活動及び理学療法における課題収集・調査を実施した。

新型コロナウイルス感染症におけるあり方の検討委員会（渡邊）：新型コロナウイルス感染症に関する研修会を実施した。また、新型コロナ対策の研修会マニュアルを作成中。

質疑応答がなかったため、議決に入った。

令和3年度事業報告について審議の結果、出席理事全員一致で承認された。

【決算報告】

議長の求めに応じ本宮から令和3年度決算報告について本宮財務局長より決算書に基づき説明があった。

質疑応答がなかったため、審議に入った。

令和3年度決算報告について審議結果、出席理事全員一致で承認された。

【監査報告】

令和3年度監査報告について前園監事より監査報告書に基づき説明があった。

<計画外審議>

○議長の求めに応じて赤坂教育局長、木勢認定・専門研修部長、駒井後期研修部長から資料に基づき「士会承認研修会・症例検討会の報告用フォームについて」説明があった。

上記の説明に関連して、次の質疑応答があった。

赤坂：県士会独自のルールとして開催後1週間までに報告してもらうようにする予定。

水田：研修会の事前登録フォームが事務局から送られてきているがどうなっているか。

木勢：申請は登録理学療法士がマイページから申し込み、それを我々が確認し承認する形。今回のフォームは県士会として把握するためのフォーム。履修登録に関しては、開催後にマイページから申し込む。

水田：今回のフォームは県士会とは別に職場内での研修会を報告するためのフォームであると理解したが、県士会主催の研修会については事務室に送ることになっている。これとの違いはどうなっているか。

木勢：今まで通り県士会主催のものについては事務室を通してもらう申請としてもらう。

田口：県士会主催の研修会を今まで通り。ただし、様々な場所で今後開催される研修会を全く把握できないのは困るのでそれを把握するためのフォームと考えてもらいたい。

審議の結果、原案通り出席理事全員一致で承認された。

○議長の求めに応じて赤坂教育局長から資料に基づき『新生涯学習制度導入に伴う「教育局副局長」の試行設置、および「教育局副局長」の推薦について。』説明があった。

上記の説明に関連して、次の質疑応答があった。

阿久澤：副局長を置くことによりどんな権限や役割が与えられるのか。また組織運営上今まではどのようにしていたのか。

赤坂：今までは委員会以外に役職を増やしたことはなかった。副局長は理事ではないので業務としては試行的におこない確立していく提案。

田口：新生涯学習システム運用にあたり赤坂先生以外全体を把握できている人がいない。そのため全体を把握できている人が他にも必要と考えた。今後副局長の役割が確立できるのであれば今後組織検討委員会に議題として挙げていきたいと考えている。

阿久澤：今後必要となっていくと考えられるものを水面下だけでなくおこなっていくということか。

田口：その通りです。

南本：部長は理事会承認、部員は部長承認です。これで試行的にやっけていき今後議論していく必要があると思います。

審議の結果、原案通り出席理事全員一致で承認された。

○議長の求めに応じて渡邊副会長・米澤県央エリア長から資料に基づき「ブロックにおける LINE 公式アカウントの使用について」説明があった。

上記の説明に関連して、次の質疑応答があった。

原田：メルマガだと相手の反応がわかりづらく、所属エリアの方々に向けた情報発信としては有用だと考えます。また、投稿はエリア長が配信するということか？現状その他ツールで投稿するときは理事から配信している。

米澤：そう考えています。

原田：内容についての構想はあるか。

米澤：開催情報について公文書だけでは伝わらない具体的なテーマ等を配信できればと考えている。

宇野：手続き上どうしたよいか。

米澤：審議されたものに沿って配信する。

岡持：公式と言っているものなので埼玉県理学療法士会としての配信であるため運用としてどうするか。また、登録する窓口やエリア長が変わった際に引継ぎをどのように行うか。

米澤：「公式」はあくまでサービスの名称なので、あくまでエリアでの情報発信という前提の情報をしっかり伝えられれば。エリア長が変わった際にどうするかに関しては、エリア運営委員にもどのようにおこなっているかを把握してもらっていき、資料を作成しておくように考えている。

岡持：全エリアについて必要なものなので上手く運用できれば。

阿久澤：各エリアで別々のツールにならないとよいと思うので、他のエリアではどう考えているのか。

米澤：すべてのブロック理事、エリア長と連絡は取れており、まずは南部ブロック県央エリアでおこない良ければ広げていきたいと意見はもらっている。

田口：県士会員以外も登録される可能性があるのか。

米澤：その通りです。県士会員以外も登録される可能性があります。チャットを送ってくれた方は情報管理ができるが、そうでない方はわからない。

田口：他職種も登録する可能性があるの今後検討が必要か。また 1000 通の意味合いとして登録者の数なので 500 人いたら 2 通しか送れない。今後登録者が増えた際の工夫はどうか。

米澤：現状想定する情報発信では足りると考えている。ただ、本当に登録者が増えた場合には有料版や複数のアカウント作成が必要と考える。

三宮：数が増えてくると埋もれてしまったり、管理ができなくなるので運用に関しては検討が必要と考える。

米澤：エリアの中でも、細かく地区で分けることもできるので色々運用はできると思う。

南本：「公式」と聞くと一般の人は県士会全体としての公認と考えることは想定されるので管理と後方の両側面を考えていかないといけないといけない。やってみないとわからない部分もあると思う。

田口：県士会としてしっかり管理するというよりは県士会の隅々まで情報を行き渡らせるためのツールとして使用する意図を感じた。

南本：まずは県士会の会員に行き渡らせるものとして使用するもので良いと考える。資料にあったように段階的に進めていくので良いと考える。したがってまずは米澤さんに試験的に運用してもらい、その後に正式に審議にかけるという流れでやっていきたいと考える。

上記のように審議は試験運用後におこなうこととなった。

<報告事項>

- ・LINEWORKS 審議について事務局より報告があった。

<その他報告事項>

- ・なし

以上をもって議案の審議等を終了したので、21時21分、議長は閉会を宣し、解散した。
この議事録が正確であることを証するため、出席した代表理事及び監事は記名押印する。

会長 _____ 印

監事 _____ 印

監事 _____ 印